

日本最強の  
「グランドデザイナー」  
聖徳太子

聖徳太子に学ぶ、組織と国家のOSの作り方

飛鳥時代から現代へ続く、リーダーシップの原点



# なぜ、彼は7回も 「日本のお金の顔」になったのか？

- ✓ **圧倒的な信頼**：100円から1万円まで、昭和の高度経済成長期を支えた肖像。
- ✓ **平和と文化の象徴**：偽造防止に適した髭や複雑な装束と、「和」の精神。
- ✓ **実績**：戦前から戦後まで、日本紙幣に最も多く登場した人物。

7回  
歴代最多



# 聖徳太子のミッション：「分断されたヤマト」を救え

## 内憂 (Internal)

豪族同士の権力争い（蘇我氏 vs 物部氏）。国がまとまらない。



## 外患 (External)

大国「隋」が中華統一。朝鮮半島への圧力が増大。のみ込まれる危機。



Goal: 氏族連合から中央集権国家へ。国家のOSを書き換える。

# 人事革命：家柄から「能力」へ



## 冠位十二階（603年）

Before:	After:
仕事は 「親の七光り (氏姓制度)」 で決まる	仕事は 「個人の才能と功績」 で決まる

**Impact:** 優秀な人材を官僚として登用し、豪族の既得権益を打破。  
日本初の実力主義（メリトクラシー）の導入。

# 組織文化の定義：世界最古の「社訓」

十七条憲法（604年）

和

第1条：和を以て  
貴しと為す

仲良しクラブではない。  
「議論」し「納得」して物事を  
進めるためのルール。

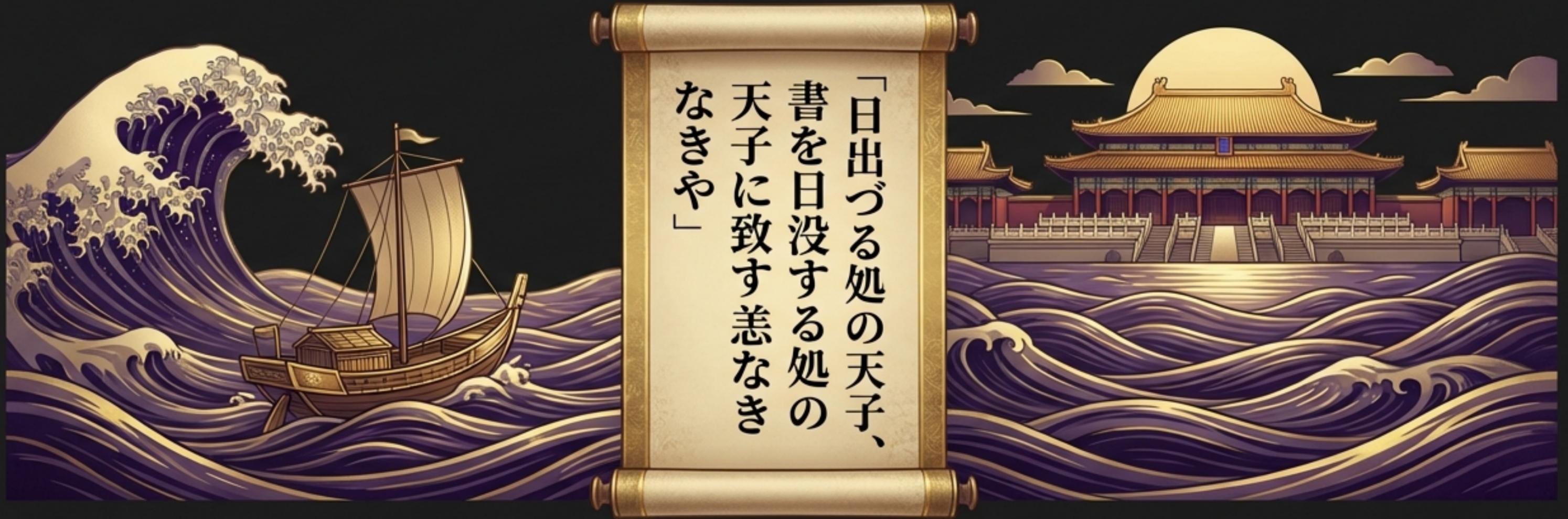
第3条：詔を承けて  
は必ず謹め

指揮命令系統（トップの命  
令）の絶対化。

第17条：  
独断するな

重要な決定は独りで行わず、  
衆議（チーム）で論じよ。

# 対等外交への挑戦状：「日出づる処の天子」



- The Audacity: 相手も自分も「天子」。皇帝（煬帝）は激怒したが、日本は引かなかった。
- The Result: 冊封体制（属国扱い）からの離脱。独立国としてのプライドを宣言。

当時、隋は高句麗との戦争中であり、日本を敵に回せないという計算もあった。

# イノベーションの源泉：仏教という「最新テクノロジー」



## 第2条「篤く三宝を敬え」

仏教を国家の精神的支柱  
(マインドセット) に。

## Social Infrastructure

四天王寺に「悲田院 (福祉)」や  
「施薬院 (病院)」を設置。

## Architecture

法隆寺に見られる、世界最古の  
木造建築技術の導入。



# 伝説「10人の話を同時に聞く」の真意

## The Myth:

超人的な聴力（豊聡耳）。

独断専行せず、多くの陳情を公平に聞き、的確な判断を下した「優れた実務能力」の象徴。



## The Reality:

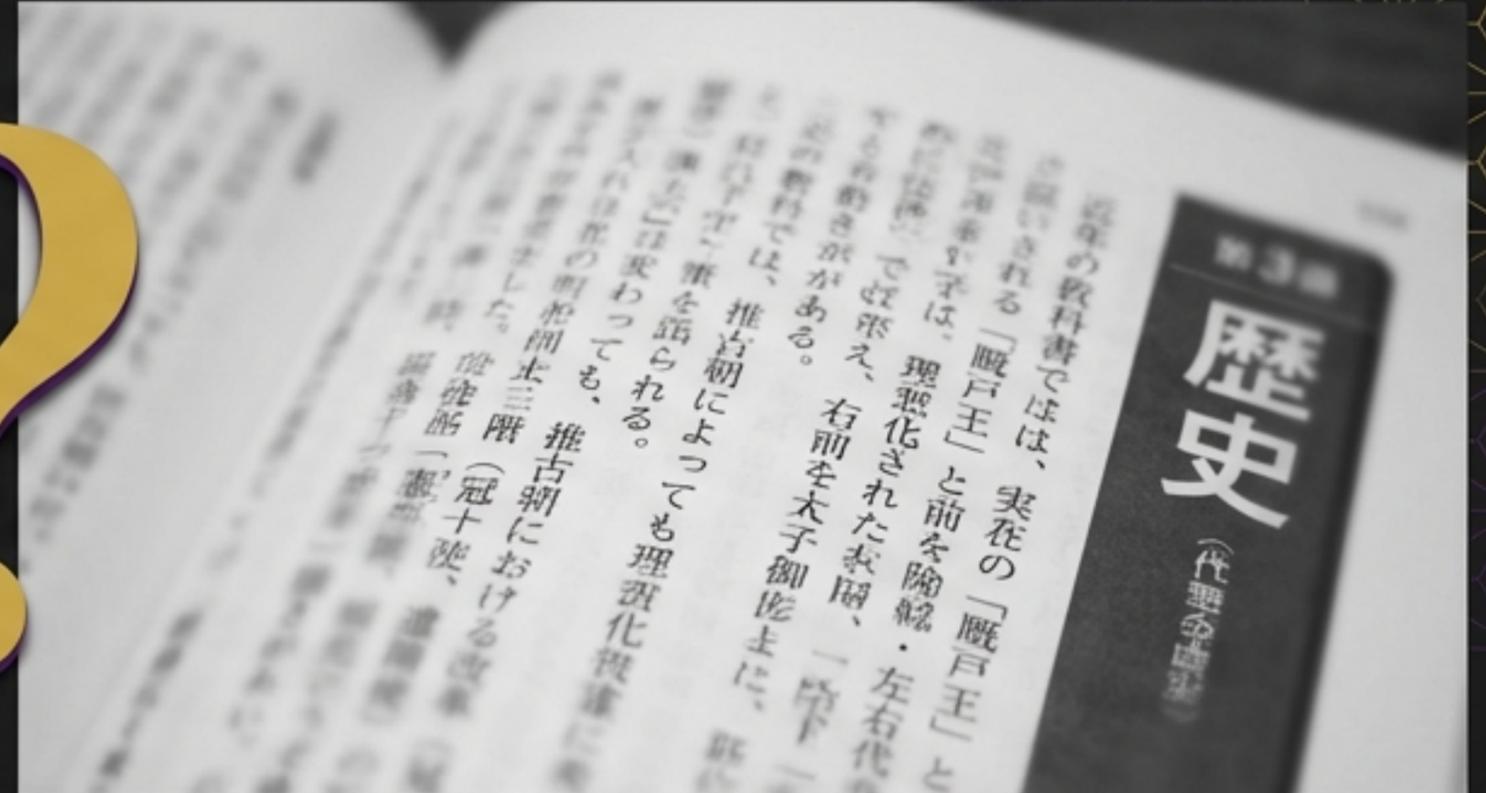
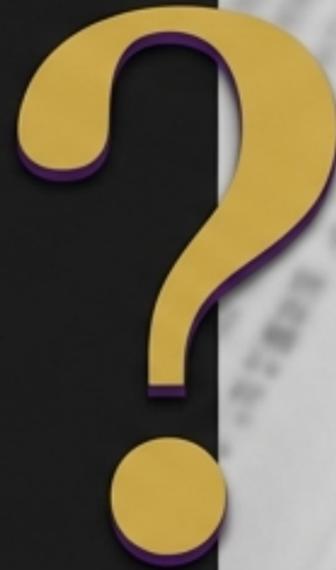
現場の声を聞き分ける「理想のリーダーシップ」。

ノイズの中から真実を聞き分ける力が、リーダーには求められる。



## Shippori Mincho B1

# 「聖徳太子」か「厩戸王」か？



### Controversy:

近年の教科書では、実在の「厩戸王」と理想化された「聖徳太子」を区別する動きがある。

### Verdict:

呼び名は変わっても、推古朝における改革（冠位十二階、憲法、遣隋使）の歴史的インパクトは揺るがない。

### Identity:

彼は日本人が1400年かけて築き上げた「理想のリーダー像」そのものである。



# 1400年続く 「和」の精神を、今こそ。

- ・ 独立不羈の精神
- ・ 実力主義への転換
- ・ 和を尊ぶ議論の文化

聖徳太子がインストールしたOSは、  
今も私たちの社会の基盤にある。

聖徳太子の謎に迫る動画を見る

